

マーケットの動き (2020年7月20日～7月24日)

先週の米国国債市場は、前週末比で金利が低下しました（債券価格は上昇）。
 米国国債市場は、米中対立激化の懸念から超長期国債を中心に金利が低下しました。
 欧州は、欧州連合（EU）首脳会議における復興基金案の合意、ユーロ圏PMI（総合購買担当者指数）の改善が好感されたことで、米中対立激化によるリスクオフの影響が限定的となり、ドイツ国債市場は横ばいで推移しました。

投資環境見通し (2020年7月)

米国、欧州（ドイツ）ともに、長期金利は低位で推移

米国：FRBによる新型コロナウイルス感染拡大対応の大規模な金融緩和策が金利低下圧力につながる一方、景気刺激策に伴う財政拡大が金利上昇圧力となり、長期金利は当面、低位のレンジ内で推移するとみられています。ただし、その後の長期金利は、投資家のリスク回避姿勢が後退するにつれ、上昇するとみられています。

欧州：ECBは国債や社債の買入れや資金供給を通じて金融市場の安定化に努めるとみられることから、ドイツ長期金利は当面は低位で安定するとみられています。その後のドイツ長期金利は、財政出動に対して各国の足並みが揃うとみられることから、米国市場と同様に上昇するとみられています。

	7月24日	変動幅（騰落率）			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
10年国債利回り（米国、%） （変動幅）	0.57	▲0.05	▲0.12	▲1.10	▲1.48
FTSE世界国債インデックス 除く日本、円ベース（騰落率）	492.07	0.12%	1.46%	3.60%	7.04%

※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。

※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202007_outlook.pdf

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>

主要国債利回りの推移

（期間：2019年6月28日～2020年7月24日）



FTSE世界国債指数の推移

（期間：2019年6月28日～2020年7月24日）



※2019年6月28日の値を100として指数化

※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成